



文部科学省国際統括官 山脇 良雄

皆さん、こんにちは。本日はお忙しい中、フォーラムにご参加いただきありがとうございます。ユネスコは国連の専門機関で、教育、科学、文化分野での協力・交流の促進を通じて国際平和に貢献をすることを目的とする機関です。ユネスコの事業としては世界遺産が有名ですが、その他にもさまざまな事業を実施しています。ESD は、持続可能な開発のための教育ということでユネスコの事業の重要な柱であります。

ESD は、防災、環境、技能、意識、価値観、すなわち持続可能な未来を形成する能力を身に付けるための教育であり、重要な持続可能な問題、防災、環境破壊、貧困といった課題を学習に取り入れています。その結果、ESD は、例えば批判的な思考力、将来的なシナリオの想定、また、意思決定を協調的にするような能力を推進します。

昨年 11 月に、日本政府とユネスコは ESD に関するユネスコ世界会議を、愛知県名古屋市と岡山市で開催しました。153 カ国、地域から 3000 名の方々がこの世界会議に参加しています。国連、ESD の 10 年を振り返り、2015 年以降の ESD の推進策が議論されました。国連 ESD の 10 年の後継プログラムとして、ESD に関するグローバル・アクション・プログラムが正式に発表されました。さらに「あいち・なごや宣言」が採択されています。これは ESD をさらに強化し、そのための行動を起こすことを宣言しているものです。

実は仙台は日本におけるユネスコ活動の発祥の地であることを忘れてはなりません。2011 年以前、ESD の努力、これは防災教育であります。宮城教育大学、気仙沼市において積極的に展開されました。ESD の関与を通じて、気仙沼市の子どもたちは自己判断できる能力、その判断を行動に移す力が育まれています。東日本大震災の非常時においても、子どもたちは冷静に状況を判断し、臨機応変に対応することができました。子どもたちの行動の背景にあるのが、地域との連携が図られていたことです。子どもたちと地域の住民は協調関係を築いていたのです。これは ESD の取り組みを通じてということでもあります。

私の出身地、兵庫県は、20 年前の 1995 年に阪神淡路大震災が起きました。私はこの地震を受けて地震の調査研究体制を再構築する仕事に従事しました。その結果、全国的な地震調査網ができました。しかし、それだけでは十分ではありません。地震に関する研究成果や知識の積み重ねを基にそれを生かす人間の知恵と行動、防災のための教育が重要だと感じています。ESD 会議のフォローアップ・アクションとして、特別な ESD タスクフォースがあります。ユネスコの委員会がフォローアップ・プランを研究しており、三つの課題を検討しています。一つは ESD を広める取り組みとして、ESD を実践する学校の拡充を通じた、学校教育における ESD の浸透です。二つ目は、ESD を深める取り組みとして、学校教育における ESD の実践力を優良事例の共有などで向上させる。三つ目は、ESD を

国際的に浸透・充実させる取り組みであります。

宮城教育大学をはじめ、関係の皆さまの多大なるご支援、ご協力にあらためて感謝を申し上げます。あわせてこのフォーラムの開催が貴重な機会、ESD の概念や実践を普及する手段となること。それが日本全国に広まることを祈念し、私のご挨拶とさせていただきます。